令和 2 年度
子ども・子育て支援センターに関する
アンケート結果

1　調査概要

調査の目的

現在原村では、子ども・子育て支援センター建設基本計画を策定するにあたり、現在の子育て支援拠点事業の利用状況、今後の利用希望などを把握し、この計画の参考にするため調査を実施した。

調査の対象者・回収状況

1) 調査対象者　80 名（回収数 29 名 36.2%）

（0 歳児：22 名（令和 2 年 4 月 2 日～令和 2 年 10 月 30 日生まれ）
1 歳児：41 名（平成 31 年 4 月 2 日～令和 2 年 4 月 1 日生まれ）
2 歳児：17 名（平成 30 年 4 月 2 日～平成 31 年 4 月 1 日生まれ））

平成 30 年度に行った「原村子ども・子育て支援事業計画策定におけるニーズ調査」実施後に出生した子どもの保護者。
（平成 30 年 11 月～令和 2 年 10 月生まれの子どもの保護者）

2) 調査方法

郵送にてアンケートを配布し、村内公共施設 4 か所で回収

3) 調査期間

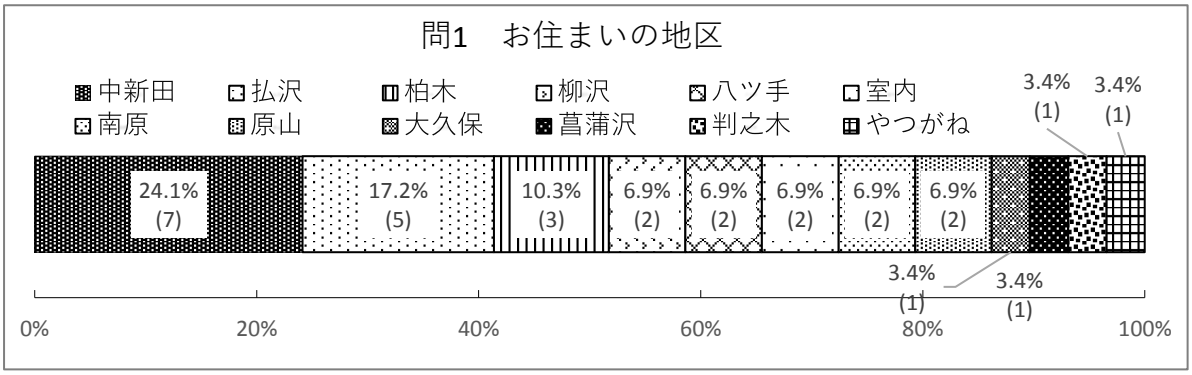
令和 2 年 10 月 27 日～令和 2 年 11 月 6 日

2　アンケート調査結果

本調査結果における年齢は、令和 3 年 4 月 1 日時点の年齢である。

回答者や子どもの属性

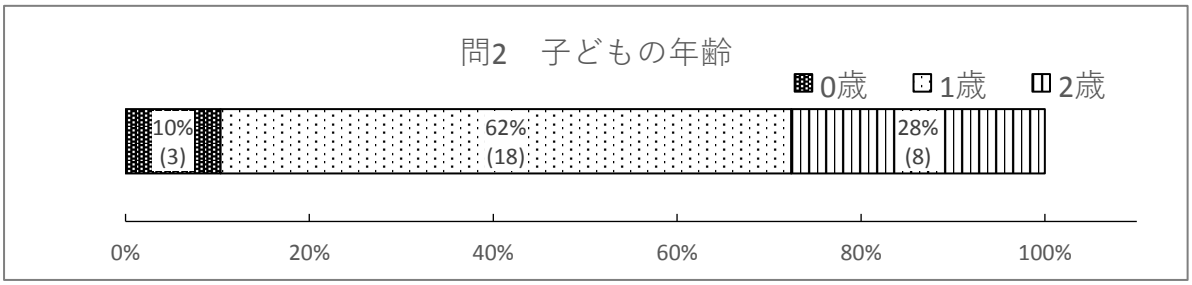
1）地区

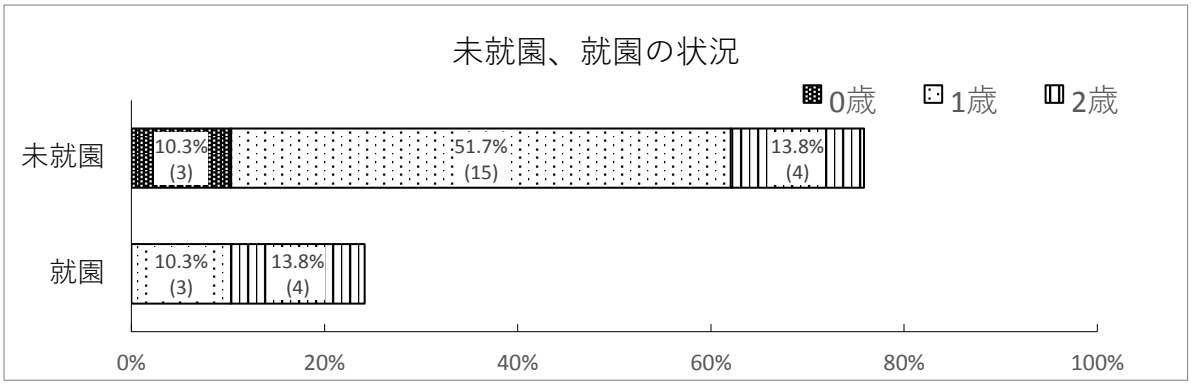


2）子どもの年齢及び未就園、就園の状況

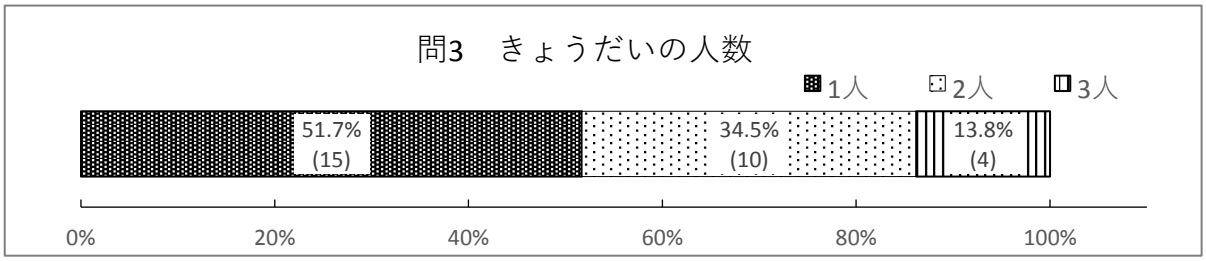
全体では未就園の 1 歳児が 51.7%と最も多い。

本調査の回答者は、就園よりも、未就園の子どもを育てている保護者が多い結果となった。





3)きょうだいの人数



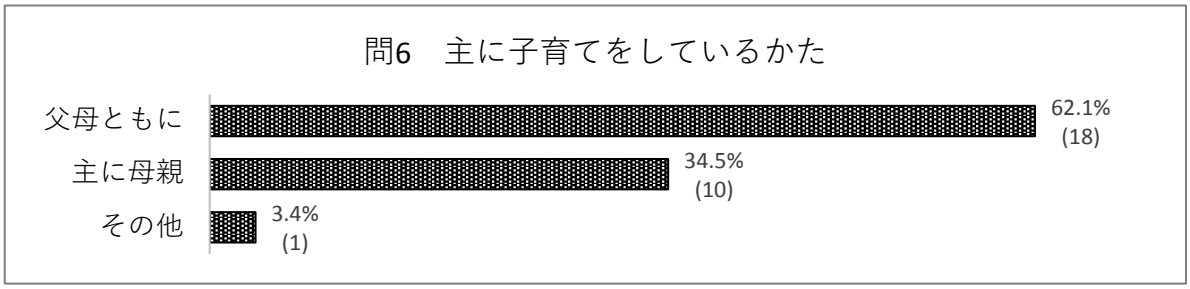
4)回答者

今回の調査の回答者の属性は、全員が「母親」であった。(29 人/29 人、100%)

5)配偶者

今回の調査の回答者の属性は、全員が「配偶者がいる」と回答した。(29 人/29 人、100%)

6)子育てを主に行っているかた



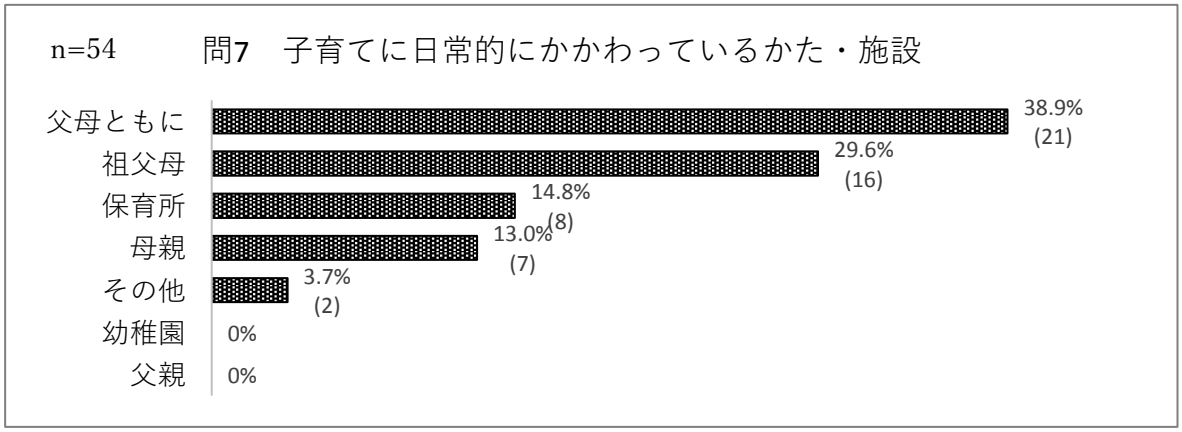
＜その他自由筆記欄＞

父母・祖父母ともに

子どもの育ちをめぐる環境

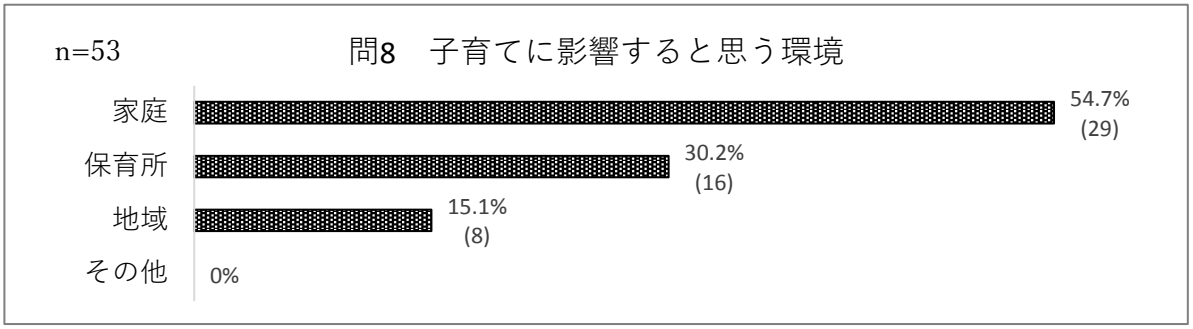
1）子育てに日常的にかかわっている方

「父母ともに」が 38.9%と最も高く、「祖父母」29.6%、「保育所」14.8%の順で続いている。



2）子育てに影響すると思う環境

「家庭」54.7%が最も多く、次いで「保育所」30.2%、「地域」15.1%の結果であった。

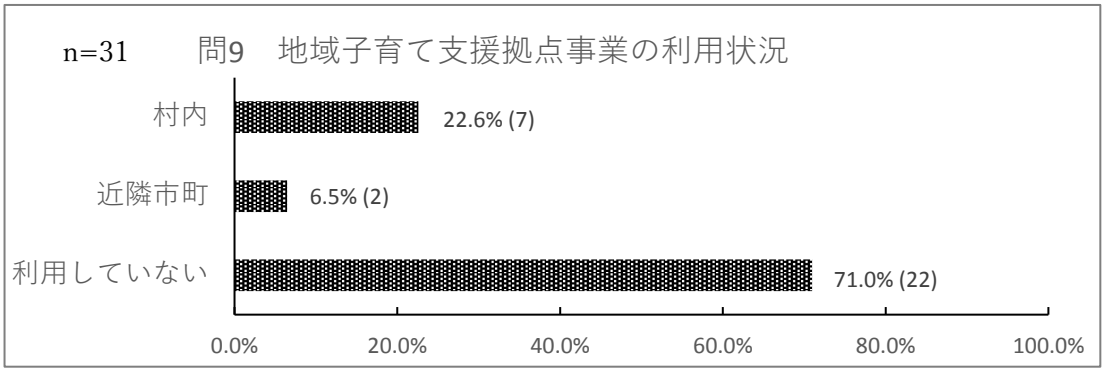


地域の子育て支援拠点事業の利用状況について

1)子育て支援拠点事業の利用状況(※)について

※子育て支援拠点事業の内容:「交流の場の提供・促進」、「子育てに関する相談・援助」、「地域の子育て関連情報提供」、「子育て・子育て支援に関する講習」など。
原村では子育てサロンを開設している。

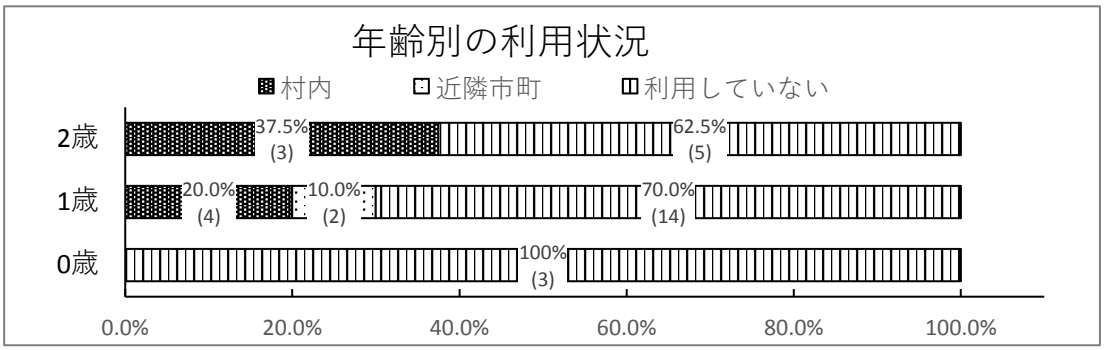
「利用していない」回答者が 71.0%で最も多い結果であった。
村内・近隣市町を利用している保護者の利用頻度は「月 1 回程度」と回答する保護者が最も多かった。なお近隣市町の利用者は、村内の施設と併用して利用していた。



年齢別の利用状況

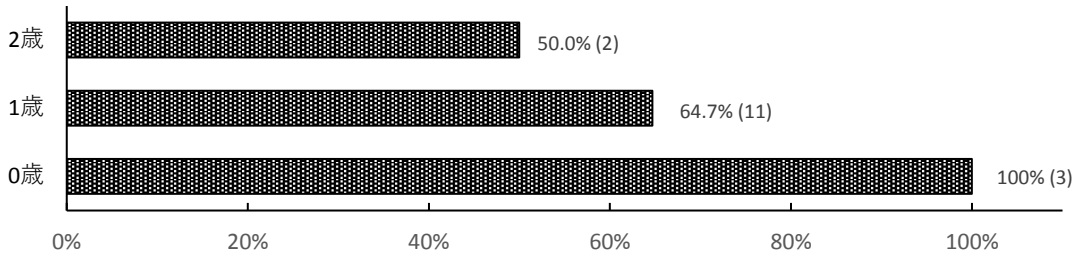
年齢別に利用状況を見ると、0 歳から 2 歳にかけて、村内を利用する割合が増加する傾向がみられる。

近隣市町の利用状況は、村内を利用しつつ、並行して茅野市（0123 広場）を月 1 回程度利用している状況であった。



「利用していない」未就園児

「利用していない」と回答した 22 名のうち、年齢別に未就園児の割合を見ると、0 歳は 100％であり、1 歳から 2 歳にかけて、利用していない割合は減少している。



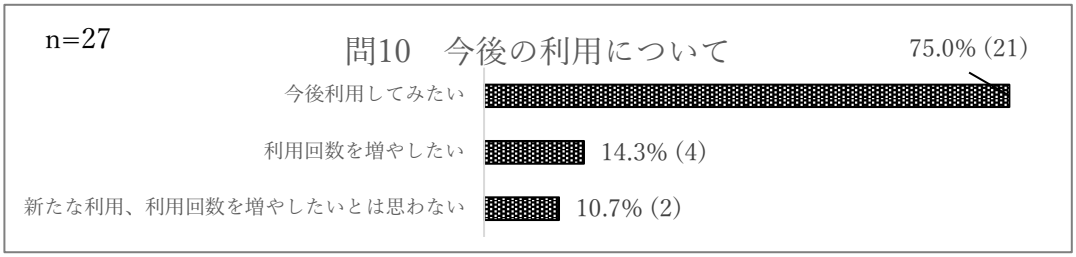
年齢ごとの未就園児の総数をそれぞれ 100%とした、利用していない未就園児の割合

＜自由筆記欄＞

就園	・ 保育園に行っているから。 ・ 平日は保育園、週末は庭で遊んでいるため。
未就園	・ 月齢が低く、子育てサロンへの参加は早いのではないかと思っている。何歳くらいか参加が適当かわからない。 ・ まだ小さいので。 ・ 知らなかった。 ・ コロナ禍であるため、周りに行っている人がおらず、情報が少なく利用につながっていない。 ・ コロナ、インフルエンザが怖いため。 ・ コロナ流行のため、今後利用したい。 ・ 上の子たちが保育園に通っていて仕事に行ったりしているため、行ってみたいとは思うが、行かせられない。 ・ 利用したいと思っているが、なかなか時間が取れずいかれないことが多い。今はサロンの開所時間にお昼寝をしているため、起きる時間が長くなったら利用したいと思っている。 ・ 仕事をしていて時間があまりとれないため。 ・ 平日は子連れで勤務をしており利用する機会がほとんどない。子育てサロンは曜日、時間が限られているので、なかなか時間が合わないため。

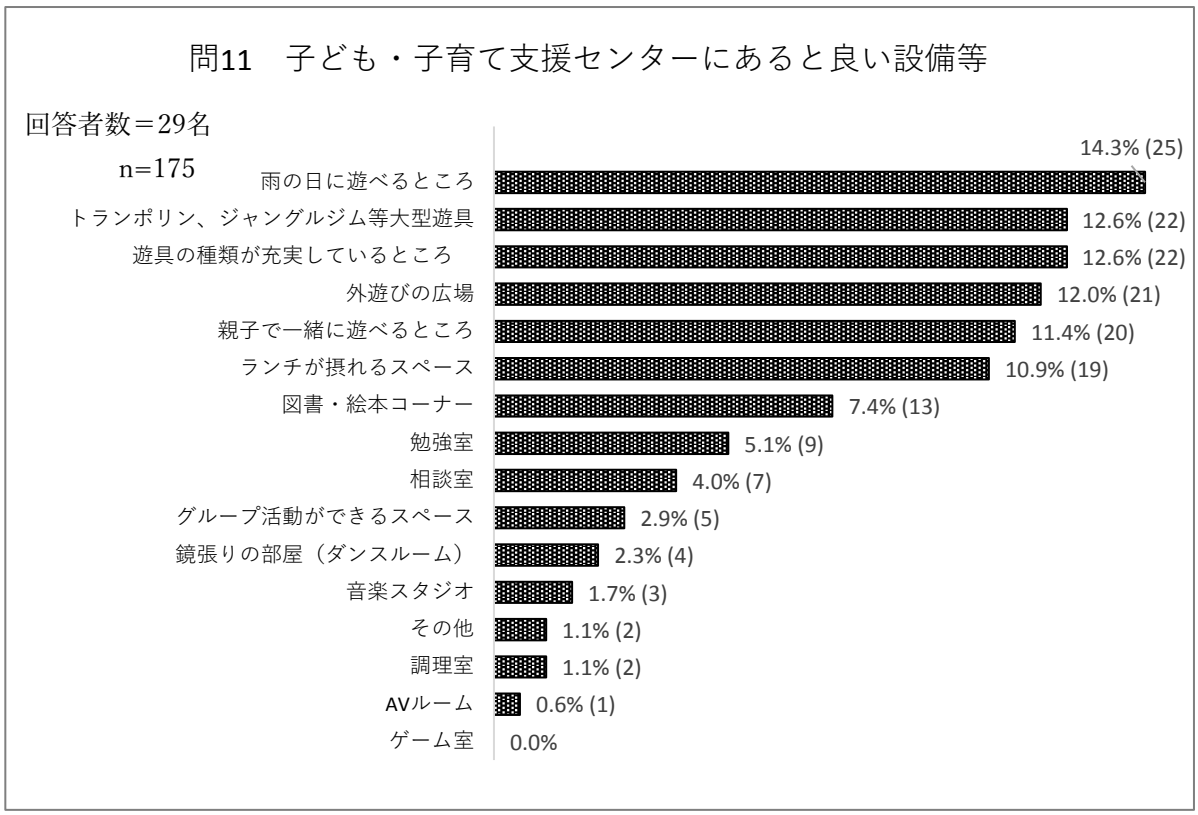
2）地域子育て支援拠点事業の今後の利用について

「今は利用していないが、今後利用してみたい」が 75.0%と最も多い結果となった。



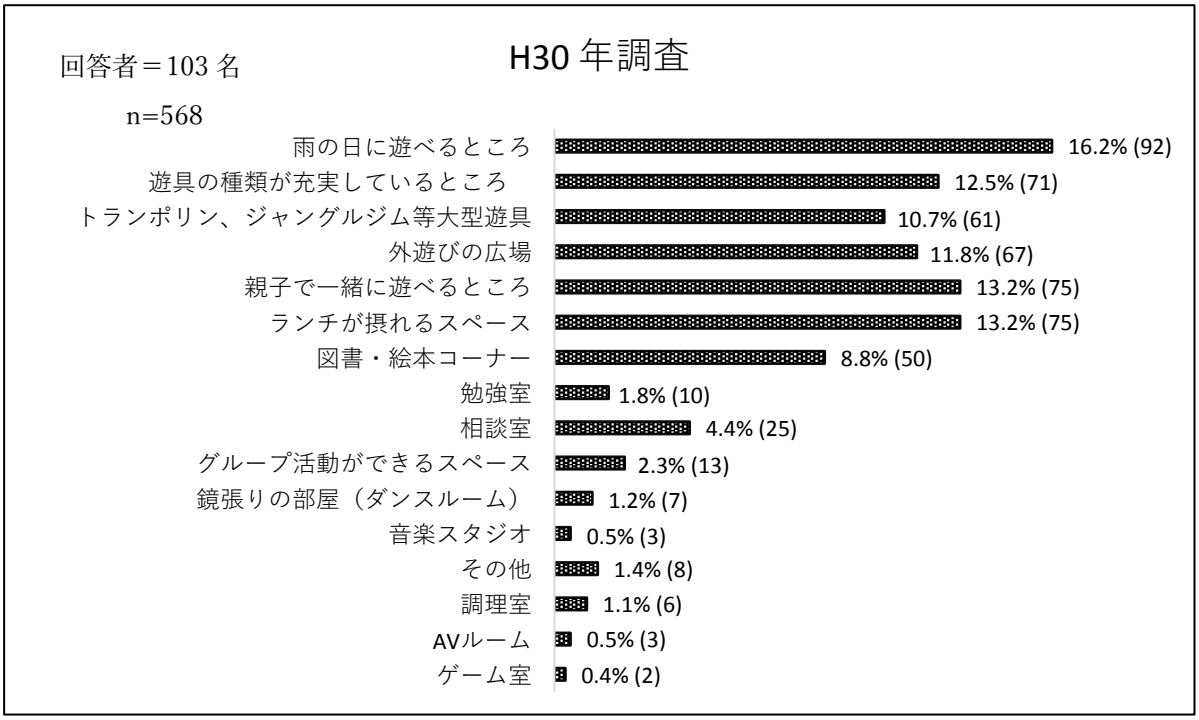
3）子ども・子育て支援センターにあるとよい設備等

「雨の日に遊べるところ」の 14.3%が最も高く、「トランポリンやジャングルジム等の大型遊具」と「遊具の種類が充実しているところ」がそれぞれ 12.6%で続いている。



【参考】平成 30 年実施「原村子ども・子育て支援事業計画策定におけるニーズ調査」

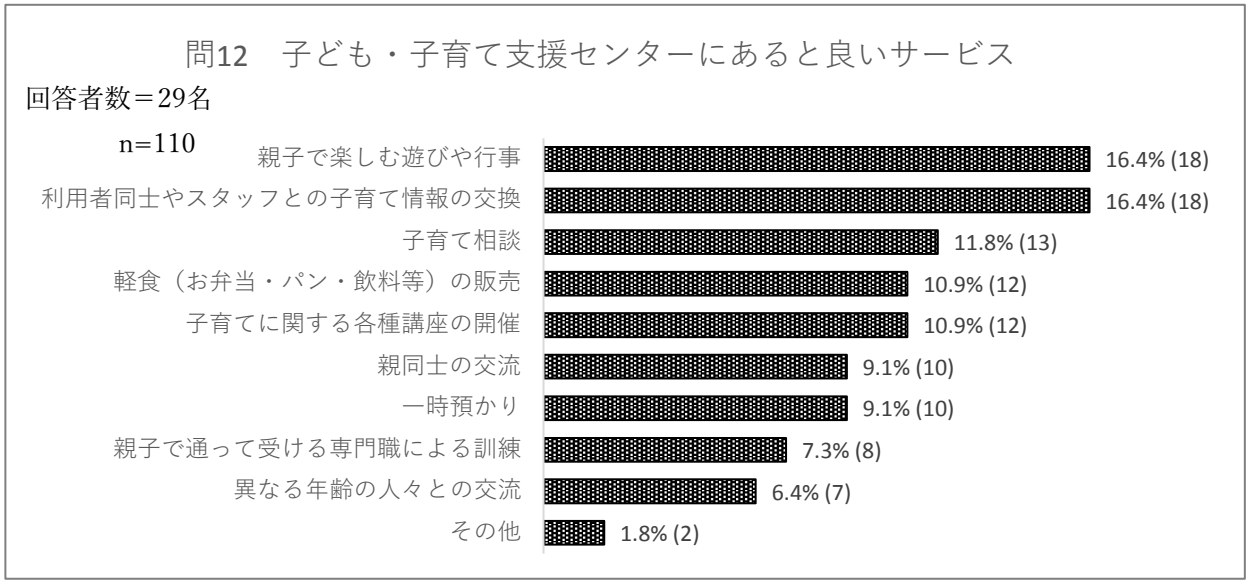
※今回調査の対象とした年齢と同じ、0 歳～2 歳（平成 31 年 4 月 1 日基準日）の子どもの保護者（103 名）の回答を取りまとめている。



4）子ども・子育て支援センターにあるとよいサービス

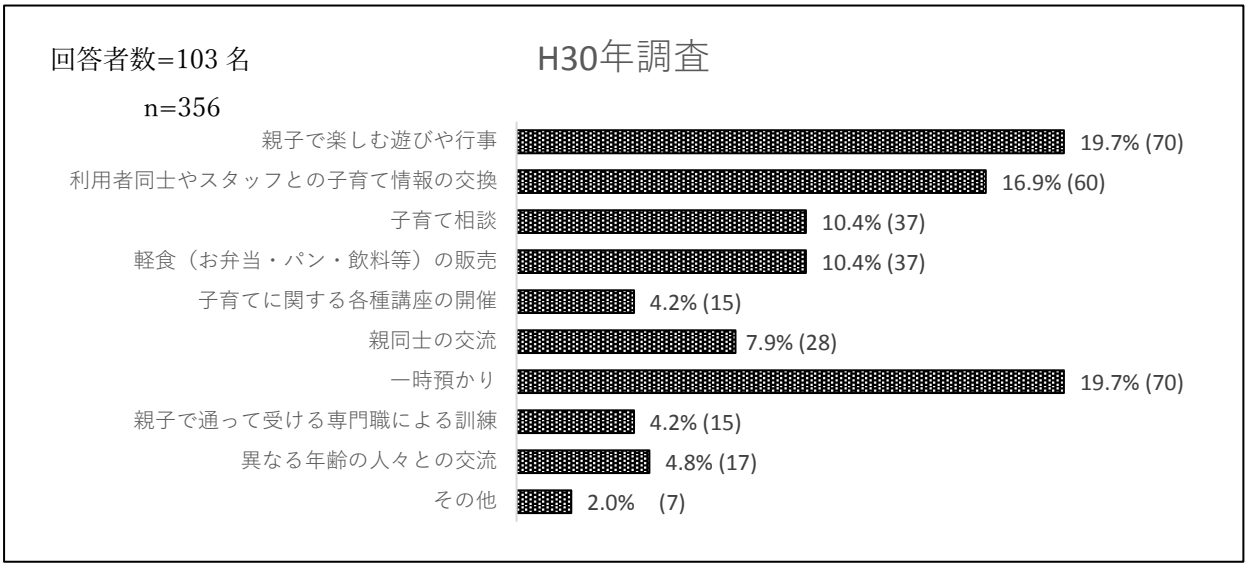
「親子で楽しむ遊びや行事」、「利用者同士やスタッフとの子育て情報の交換」がともに16.4%で最も多く、これらの項目は平成30年度の調査でも多い結果であった。

「その他」自由筆記欄には、「不用な服、おもちゃなどのバザー」「障害者との交流イベント」という意見が挙げられた。



【参考】平成30年実施「原村子ども・子育て支援事業計画策定におけるニーズ調査」

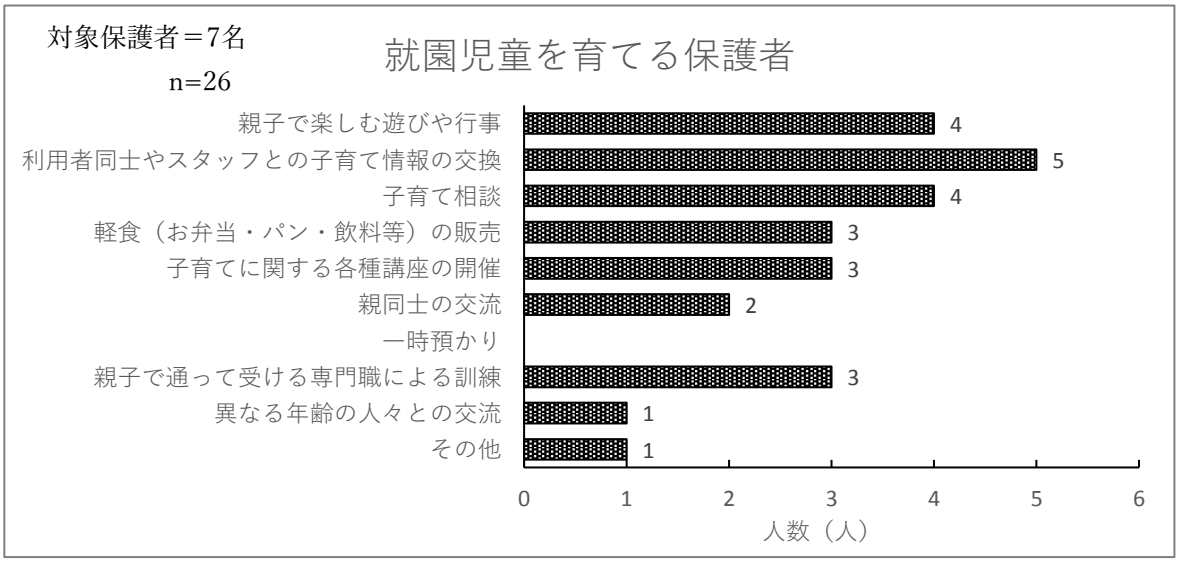
※今回調査の対象とした年齢と同じ、0歳～2歳（平成31年4月1日基準日）の子どもの保護者（103名）の回答を取りまとめている。

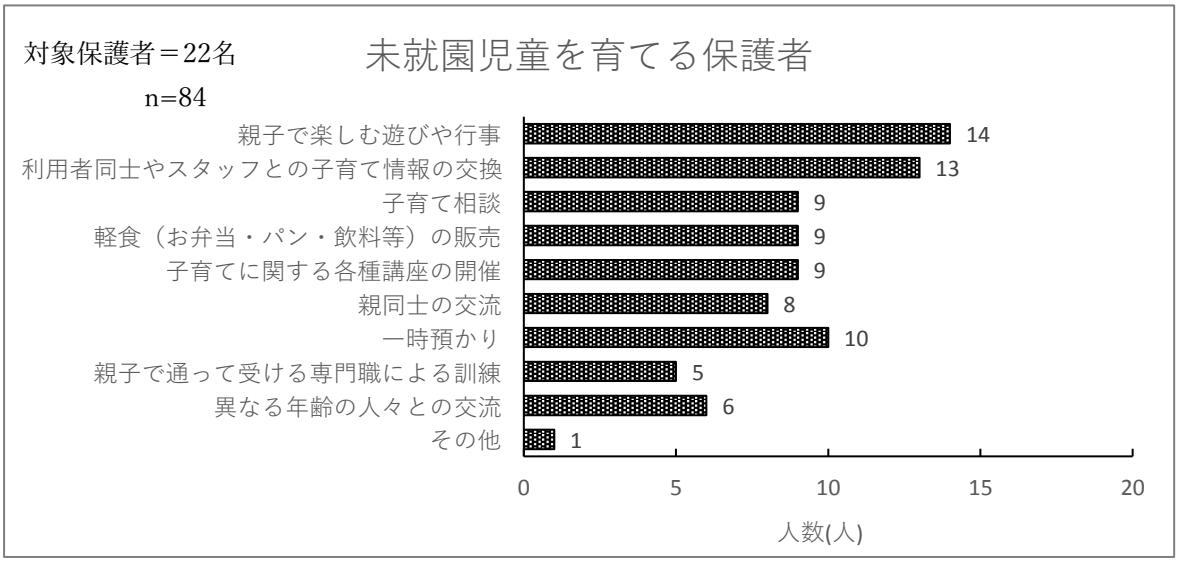


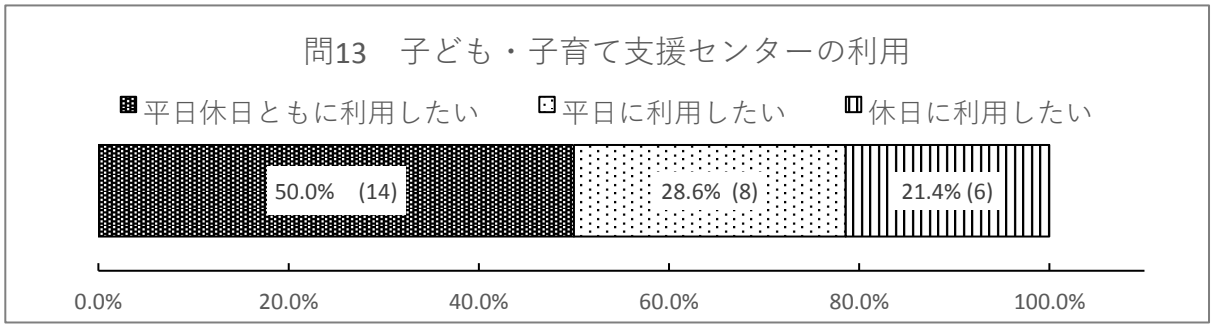
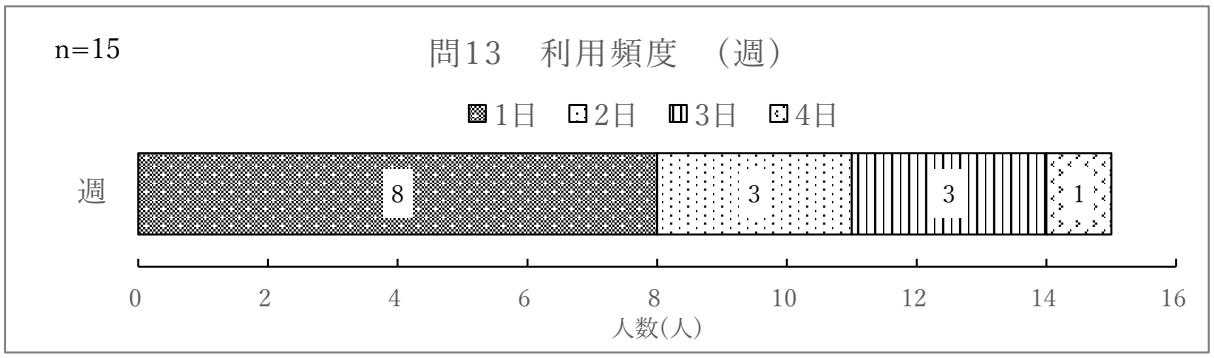
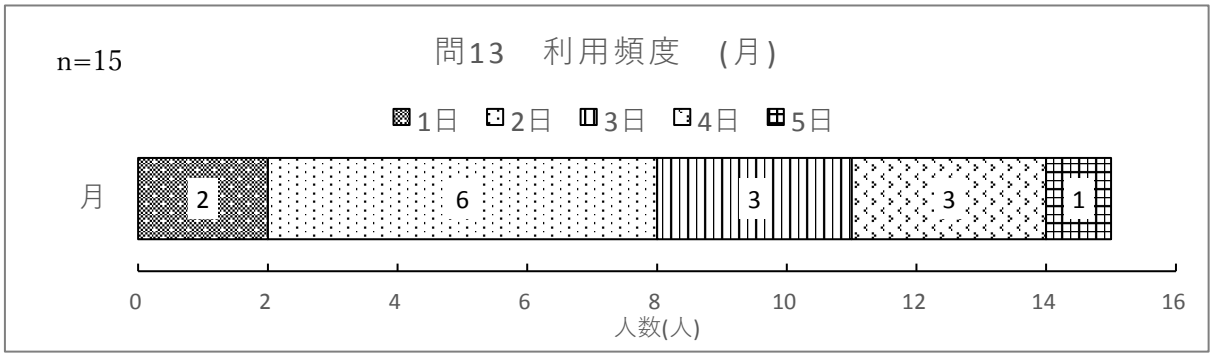
就園児、未就園児別の状況

（就園児、未就園児の子どもの総数を、それぞれ 100%としたときの割合）

全体として割合が多かった項目は、大きな差は見られなかったが、「一時預かり」、「親子で通って受ける専門職による訓練」に差がみられた。





5)子ども・子育て支援センターの利用について

「平日休日ともに利用したい」50.0%が最も多く、利用頻度は月 2 日、もしくは週 1 日程度と答えた方が多い結果であった。